

品目分類：果樹，技術分類：栽培技術

シアナミド液剤によるブドウ「ピオーネ」の収穫期前進化		情報分類	普及情報
〔要約〕シアナミド0.5%液を1月中旬に散布することにより発芽や開花が早まり，収穫盛期が1週間程度前進化し，着色良好な果房を盆前に安定して出荷できる。			
果樹部北薩分場		連絡先	0996-42-0049
普及対象地域等	ブドウ「ピオーネ」の栽培農家	普及見込面積等	5 ha

〔背景・ねらい〕

ブドウ「ピオーネ」は種なし栽培に適し収益性も高く，盆前の需要の高い時期に収穫できるよう無加温栽培が行われている。しかし，春季の気温条件により開花が遅れ，収穫が遅れる年があることから，収穫期を前進化させ，需要期の出荷割合を高める技術が求められている。そこで，休眠打破剤であるシアナミド液剤の散布が発芽や開花に及ぼす影響と，収穫期の前進化や果実品質への効果を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 ブドウ「ピオーネ」において，2月中下旬にビニル被覆する場合のシアナミド液剤（商品名「CX-10」，シアナミド含有量10%の20倍液）の散布時期は，1月中旬で効果が高く，2月では効果が低い（表1）。
- 2 シアナミド液剤の散布回数は，1月中旬の1回散布と1月中旬，下旬の2回散布で効果に差がないことから，1回で十分である（表2）。
- 3 シアナミド液を1月中旬に散布することにより，無散布に比べて発芽期が10日程度，開花盛期および収穫盛期が1週間程度早くなる（表3）。
- 4 果実品質は，果房重，糖度および酒石酸含量に差はないが，果皮色の色票値（カラーチャート値）が高く濃い紫黒色となり，着色良好となる（表3）。
- 5 散布により8月上旬までの収穫率が高くなり，収穫時期別の単価と1樹当たり収量から試算した粗収益は，無散布に比べて226千円/10a程度増加する（表4）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 「ピオーネ」の短梢せん定H型平行整枝樹の種なし・無加温栽培において，収穫期の前進化技術およびハウス内での労力分散技術として活用できる。
- 2 肩掛け噴霧器を用い，短梢（2芽）せん定後の結果母枝に散布する場合，樹当たりの散布量は約1.5L，散布時間は5～7分，10a当たりの薬量は約2Lである。
- 3 シアナミド液剤の散布により発芽が早まることから，霜避け対策を行う。
- 4 前年に樹勢低下が認められた樹では，芽枯れが発生することがあるので散布を控える。

[具体的なデータ]

表1 シアナミド液剤の散布時期が生育相に及ぼす影響 (平成25年)

試験区	開花盛期	収穫盛期
1 月	5月11日 a	8月5日 a
2 月	5月14日 b	8月9日 b
無散布	5月15日 b	8月12日 c
有意性	**	**

注) 1. 1月区は1月15日, 2月区は2月15日散布
2. 有意性: Tukey法により**は1%水準で異符号間で有意差あり

表2 シアナミド液剤の散布回数が生育相および着色に及ぼす影響 (平成26年)

試験区	発芽期	開花盛期	収穫盛期	果皮色色票値
1 回	3月7日 a	5月2日 a	8月5日 a	9.0a
2 回	3月8日 a	4月30日 a	8月5日 a	9.0a
無散布	3月19日 b	5月7日 b	8月11日 b	7.3b
有意性	**	**	**	*

注) 1. 1回区は1月15日に, 2回区は1月15日および27日に散布
2. 有意性: Tukey法により, *は5%, **は1%水準で異符号間で有意差あり

表3 シアナミド液剤の散布が生育相および果実品質に及ぼす影響 (平成24~26年の平均)

試験区	発芽期	開花盛期	収穫盛期	果房重 (g)	糖度 (Brix)	酒石酸 (g/100ml)	果皮色 色票値
散 布	3月15日	5月6日	8月5日	560	17.8	0.49	8.0
無散布	3月25日	5月12日	8月11日	579	17.3	0.53	6.7
有意性	**	*	**	ns	ns	ns	*

注) 1. 散布区はシアナミド0.5%液を1月15日に散布
2. 満開30~35日後に環状剥皮し, 8月上旬に果実品質を調査
3. ビニル被覆日: 平成24年2月28日, 平成25年2月28日および平成26年2月12日
4. 有意性: t検定により, *は5%, **は1%水準で有意差があり, nsは有意差がないことを表す

表4 シアナミド液剤の散布が収益性に及ぼす影響 (平成24~26年の平均)

試験区	7月下旬		8月上旬		8月中旬		8月下旬		全期間合計		10a換算 粗収益 (千円)
	収量 kg/樹	割合	収量 kg/樹	割合	収量 kg/樹	割合	収量 kg/樹	割合	収量 kg/樹	割合	
散 布	8.4	(12.7)	55.6	(84.0)	2.2	(3.3)	—	—	66.2	(100)	1,702
無散布	—	—	18.5	(29.0)	34.9	(54.5)	10.5	(16.5)	63.9	(100)	1,476
単 価	1,241		1,018		907		787		—		—

注) 1. 単価: 鹿児島市中央卸売市場で取り引きされた「ピオーネ」の平成22~26年の時期別平均 (円/kg)
2. () 内の数字は, 樹当たり収量の時期別および全期間合計の割合 (%) を表す

[その他]

研究課題名: 地球温暖化を利用した農業生産技術等の研究・開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成26年度 (平成25~29年度)